

## 研究懇談会活動報告

### 1) 構造系研究懇談会報告

回数	開催日	テーマ/講演者	参加人数	講演概要
1	5月26日(火)	講師:中島肇先生,長沼一洋先生: 教授就任記念講演会「これまでの軌跡とこれからの課題」	47名	今年度4月より理工学部建築学科に教授として着任した中島先生(清水建設)と長沼先生(大林組)の紹介を兼ね、前職において取り組んできた業務・研究内容とこれからの教育・研究課題について講演していただいた。
2	6月25日(木)	講師:遠藤和男(㈱エンチ) 題目:海は人類を救うー赤道に浮かぶ21世紀の楽園都市構想ー	31名	海洋建築部会との共催で行った。 <赤道に浮かぶ21世紀の楽園都市構想> 規模:20km <sup>2</sup> ・10万人・1億トン・奇跡の自然条件・恒久的に留まる浮島・自然界と共生する複層構造・変動荷重対応の円筒式と発砲体合体構造・6面を使った施工方法について講演していただいた。
3	9月15日(木)	竹内健一(青木あすなる建設) 層間変形角1/200まで降伏しない「折返しブレース」を用いた事務所ビル設計	35名	層間変形角1/200まで降伏しない「折返しブレース」を開発し、鉄骨造事務所ビルの新築工事に初採用した。折返しブレースの効果により、一次設計レベルにおいてもフレームの耐力が有効に発揮されるブレース構造が実現し、総鋼材量が20%低減した事例を紹介していただいた。
4	11月28日(土)	福島 孝志(01理工建築卒) 日建設計	120名	・JSCA賞受賞記念講演 「羽田クロノゲート 地域貢献エリア『和の里』施設群」 受賞作品をPPTを用いて紹介していただいた。 また、講演の最後に斎藤先生からアーキテリング・デザイン凱旋展2015 in 日本大学CSTの開催について紹介していただいた。

### 2) 海洋系研究懇談会報告

回数	開催日	テーマ/講演者	参加人数	講演概要
1	6月11日(木)	港湾の津波防災の最前線/日本大学理工学部海洋建築工学科 増田光一	学生18名 教員:2名 合計:20名	東日本大震災により津波防災の重要性が改めて認識された。10年以上の歳月をかけて進めている今後の巨大津波に備える研究で得たノウハウと絡めながら、港湾の津波防災の最前線について紹介していただいた。
2	6月18日(木)	浮体式洋上風力発電施設の安全性評価/海上技術安全研究所 井上俊司	学生25名 教員:4名 合計:29名	浮体式洋上風力発電施設は、陸上風車と海洋浮体の技術を組合せて開発されてきたが、技術の総合化において新たな技術課題も発生している。国内の技術基準や国際標準の動向も交えて、安全性評価の最前線を紹介していただいた。
3	6月25日(木)	”海は人類を救う” 赤道に浮かぶ21世紀の楽園都市構想 /㈱エンチ 遠藤和男	学生20名 教員:6名 会員:5名 合計:31名	<赤道に浮かぶ21世紀の楽園都市構想> 規模:20km <sup>2</sup> ・10万人・1億トン・奇跡の自然条件・恒久的に留まる浮島・自然界と共生する複層構造・変動荷重対応の円筒式と発砲体合体構造・6面を使った施工方法について発表していただいた。
4	7月2日(木)	巨大浮体が日本の未来を切り拓く /㈱フォルム 松本有	学生18名 教員:6名 合計:24名	「東京湾に浮かぶ巨大IR構想」 千葉県海浜幕張地区の企業経営者が集まって進めているMICE・IR推進活動。その中の一つが、東京湾上の巨大浮体構想であり、巨大浮体によって大きな可能性が広がり、日本の次世代産業となる。
5	10月8日(木)	都市再生の魅力と考え方/橋本直樹氏(都市再生機構)	学生111名 教員:2名 合計:113名	都市再生の進め方について具体的に解説していただくとともに、これまで都市機構が全国で供給してきた団地において、現在どのような取り組みが行われているのかを紹介していただいた。
6	10月15日(木)	都市をつくる建築への試み ー技術シナリオを統合するデザインアプローチー/小野和幸氏 KAJIMA DESIGN 鹿島 建築設計本部 建築設計統括Gr.	学生110名 教員:2名 合計:112名	建築プロジェクトが複合化・多様化する中、都市と建築の関係性、社会から求められる建築設計者の役割について、国内外の設計事例とともに紹介していただいた。
7	10月22日(木)	建築構造設計の醍醐味と個人設計事務所経営/佐藤岳人氏(TS構造設計)	学生112名 教員:3名 合計:115名	これまで構造設計者として手掛けてきた建築作品の紹介を通して、建築構造設計の醍醐味について語っていただくとともに、独立後の個人設計事務所経営についても解説していただいた。
8	10月29日(木)	海洋建築工学科を卒業してからゼネコンマンに成長するまでの道のり/池田一典氏(大成建設)	学生118名 教員:2名 合計:120名	海洋建築工学科の卒業生の多くがゼネコンに就職しています。卒業後、ゼネコンマンとして成長していった経緯について紹介していただき、学生諸君のキャリアデザインの参考になるお話をしていただいた。
9	11月5日(木)	船橋市の魅力と活力を高める基本政策/松丸悠貴氏(船橋市企画財政部)	学生105名 教員:2名 合計:107名	東京都心から30分以内と至便で、農業・漁業とも活力に満ち、大規模商業施設や公営キャンブル施設が立地し、三番瀬という東京湾の貴重な干潟が残る人口62万人の船橋市。今も人口が増加傾向にある当市の勢いを継続するための基本政策を解説していただいた。
10	11月12日(木)	人口減少時代における企画営業戦略/藤井高志氏(JFEエンジニアリング)	学生106名 教員:2名 合計:108名	50年後には人口が半減する可能性が指摘されるわが国において、郊外から都心への転居を誘導するコンパクトシティ化など、今後、都市開発に求められる新しい発想の企画営業戦略を解説していただいた。
11	11月19日(木)	港湾・海岸分野における建設コンサルタント業務(環境・計画部門)の位置づけ及び主な業務内容について/斎藤浩行氏(エコー)	学生112名 教員:2名 合計:114名	建設コンサルタント技術者としての様々な業務実績・経験から、港湾・海岸分野を中心とした社会資本整備に向けた事業実施の流れ及び環境・計画部門の重要性について述べて頂いた。
12	11月26日(木)	海洋構造物等の設計/清水健一氏(サンユウシビルエンジニアリング)	学生101名 教員:2名 合計:103名	港湾には様々な構造物が存在します。それらを設計の実際を交えながら紹介していただきます。また羽田空港の再拡張事業として建設されたD滑走路工事の設計概要や棧橋設計の概要を解説していただいた。

3) 計画系研究懇談会報告

回数	開催日	テーマ/講演者	参加人数	講演概要
1	4月22日	オウケンカフェ#19/稲垣淳哉	63名	稲垣淳哉(建築家/Eureka)の活動を紹介。
2	5月25日	オウケンカフェ#20/佐々木高之	40名	佐々木高之(建築家/アラキササキアーキテツ)の活動を紹介。
3	6月24日	オウケンカフェ#21/北川貴好	41名	北川貴好(アーティスト)の活動を紹介。
4	7月22日	オウケンカフェ#22/吉里裕也	40名	吉里裕也(SPEAC inc./東京R不動産/TOOLBOX)の活動を紹介。
5	9月30日	オウケンカフェ#23/野田恒雄	63名	野田恒雄(建築家/横浜市都市整備局デザイン室)の活動を紹介。
6	10月28日	オウケンカフェ#24/岡部友彦	24名	岡部友彦(コトラボ)の活動を紹介。
7	11月25日	オウケンカフェ#25/浜田晶則	35名	浜田晶則(建築家/浜田晶則建築設計事務所)の活動を紹介。
8	12月21日	オウケンカフェ#26/高山明	37名	高山明(演出家/Port B)の活動を紹介。
9	1月14日	オウケンカフェ#27/今村雅樹・山梨知彦・横河健	32名	今村雅樹(建築家/日本大学理工学部建築学科)・山梨知彦(建築家/日建設計)・横河健(建築家/日本大学理工学部建築学科)の活動を紹介。

4) 材料施工系研究懇談会報告

回数	開催日	テーマ/講演者	参加人数	講演概要
1	6月27日 (土) 14:00~17:30 18:30~20:30	「型枠工事の実態とコンクリートの強度管理の基準について」 理工学部 中田 善久 学位取得記念講演 「簡易透気試験による構造体コンクリートの品質評価方法に関する研究」 熊谷組 野中英	46名	型枠工事業者を対象に行ったアンケート調査結果から型枠工事業者の観点から見た型枠工事の施工と資材の実態や、平成26年度に採択された建築整備促進事業「S14 コンクリートの強度管理の基準に関する検討」の成果を講演いただいた。  日本大学大学院生産工学研究科から博士(工学)を授与された。実構造物に適用可能な削孔法である「簡易透気試験方法」を整理・発展してきたものを確立・提案した。また提案した方法により構造体コンクリートの中性化抵抗性を評価する方法などを検討したものをまとめた学位論文について講演いただいた。  学位を取得された野中博士の祝賀会を行う
2	8月22日 (土) 13:00~17:00	「第40回研究講演会」 会場:生産工学部 39号館 307号室	34名	最近公表された研究成果を発表・紹介いただいた。 発表件数20件
3	12月19日 (土) 14:00~17:00	「混和材を高含有した低炭素型のコンクリートの開発」 大林組 一瀬賢一 「現場雑感—設計・施工業務を通して」 一級建築士事務所 兼匠 兼歳 昌直	46名	低炭素型のコンクリートは、CO2排出量の大きいセメントを産業副産物である混和材で多量に置換して一般のコンクリートに比べ、CO2排出量を60%~80%低減したものである。ここでは開発概要、品質・性能および適用事例について紹介いただいた。  これまで、約50年の設計・施工業務の経験から、今振り返って思うこと、考えていることを紹介いただいた。
4	3月19日 (土) 14:00~17:00	講演会 「建築躯体合理化工法のあれこれ」 (株)クオリティ 新井一彦 笠井芳夫賞(優秀修士論文賞)表彰式ならびに笠井芳夫賞受賞修士論文発表会 懇親会	39名	わが国における建設会社は、建築主の顧客満足度の向上を目指して、より良い建築を早く、安く、安全に工事が進められるように、様々な工法の創意工夫を図ってきた。本講演では、学生諸君を主対象として、種々開発された鉄筋コンクリート工事や鉄骨工事における合理化施工方法について紹介いただく。  平成27年度笠井芳夫賞表彰式行い、受賞学生に修士論文を説明頂いた。 発表件数3件 笠井芳夫賞受賞者を囲み、その門出を祝った。

5)環境技術系研究懇談会報告

回数	開催日	テーマ／講演者	参加人数	講演概要
1	10/22(木)	「壁掛エアコン1台による住宅用全館空調システム」 講師:井口 雅登先生 (理工学部建築学科 助教, 2001年度大学院修了)	会員 17名 特維 1名 学生 42名	住宅で高い快適性と健康面に配慮した温熱環境を実現するには、全館空調による住宅全体の暖冷房が有効である。しかし、全館空調はシステム導入や暖冷房にかかる費用が多くなるため、寒冷地の全館暖房を除いて、あまり普及していない。今回は、全館空調に関する課題の解決を目指して、実際の住宅に壁掛エアコン1台による新たな全館空調システムを導入し、その機能や性能を検証したので、その結果を紹介する。
2	11/26(木)	「視的快適性と省エネが両立する照明設計とは？」 講師:加藤 未佳先生 (金沢工業大学 環境・建築学部 建築学科)	会員 9名 学生 28名	人工照明の高出力・効率化に伴い、空間を光で満たすことは容易となり、長らく続いた作業対象部位に主眼を置き机上面照度に頼った照明設計が変わりつつある。視的快適性を高めつつ、省エネルギーを実現する照明設計のヒントとなるよう、国内外における設計基準の最新動向を紹介するとともに、設計や研究の事例を紹介する。